

## 世界史B

1 次の文章を読み、下の設問に答えよ。

11世紀になると、気候が温暖になり、外部勢力の侵入による混乱がおさまって、西ヨーロッパの社会も安定してきた。11世紀後半から13世紀前半にかけて、森や荒地の開墾が進んだ。12世紀頃から農業技術の改善がなされ、鉄製農具、重量（ 1 ）犁や水車が普及し、牛馬に農具を引かせる方法も改良された。さらに、耕地を秋耕地、春耕地、休耕地にわけ、年ごとに順に交替して利用する農法が多くの地域に普及して、農業生産力は安定した。また、領主による荘園の形成にともない、農民の集落の規模も大きくなった。

荘園の耕地は垣や塀で仕切られない開放耕地であることが多かった。このために、主要な農作業は共同で行われ、農民は相互扶助と相互規制の両面をもつ村落社会の結合を強めた。農事暦による祭礼や教会行事はもちろん、過酷な領主支配に対抗する一揆や逃散も、村落社会全体で行われた。

西ヨーロッパの中世都市は、起源をたどると、ローマ時代の市街地や司教の教会、君主・諸侯の城塞を中核にして成立したものが多く、農業生産に余剰が生まれ、定期市などによる交換が盛んになると、西ヨーロッパ内部での商業が発展した。それとともに商人や手工業者が都市に移住し、11世紀頃から、都市は人口増加で賑わいを見せるようになり、貨幣経済が次第に広がりはじめた。また、十字軍をきっかけにほかの経済圏や地域との（ 2 ）商業（貿易）が頻繁に行われるようになり、都市の発展はますます著しくなった。12世紀頃から本格化した商業の発展は、西ヨーロッパ内部での（ A ）工業の発展を基盤としていた点でも、従来と性質の異なるものであった。

ヴェネツィア、ジェノヴァ、ピサなど北イタリアの港市は、東方から香辛料や絹織物などの奢侈品、綿織物を輸入し、南ドイツ産の銀や銅、フィレンツェ産の（ A ）などを東方に運んだ。こうして、内陸のミラノを含めて（ 3 ）交易圏（商業圏）が活性化した。北方では、木材や海産物、毛皮などの生活必需品を扱うハンブルクやリューベック、またフランドル地方の（ A ）工業の興隆を背景にしたブリュージュ、ガン、さらにはロンドンなどを拠点とする商業取引が盛んになり、バルト海・北海交易圏（商業圏）が成立した。これら南北の交易圏を結ぶ都市も発展し、フランスの（ 4 ）地方はトロワなどの4市で大規模な定期市が賑わい、南ドイツのアウクスブルクなどが繁栄した。西ヨーロッパの商業活動は、コンスタンティノーブルやキエフ、ノヴゴロドなど東ヨーロッパの諸都市にまで及び、そこでムスリム商人と競合することになった。

西ヨーロッパの中世都市は、その多くが商工業によって成長した経済共同体であった。はじめ、都市は国王や諸侯、司教などの支配下にあったが、やがて経済力を基盤として領主から特許状を得て、自治権を確立する都市があらわれた。イタリアでは、貴族や大商人が主導する（ 5 ）をつくる動きがくりひろげられ、12～13世紀には有力都市は周辺地域をも支配する都市国家に発展した。北西ヨーロッパ、とくにドイツでは、有力都市のなかには、皇帝直属の（ 6 ）都市となり、諸侯の権力と対抗するものもあらわれた。

都市生活は参事会によって管理され、独自の法秩序が形成された。最初、市政に参加できる市民は、大商人などの特権層に限られ、彼らは相互扶助や市場独占を目的とした商人（ B ）を形成していた。一方、

手工業の親方たちも職種別の同職（ B ）を結成した。14世紀には都市の同職（ B ）が大商人に対抗して市政参加権を獲得した。<sup>(g)</sup>

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 6 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、開墾に積極的に取り組み、その中心となった修道会を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ドミニコ修道会    イ. シトー修道会    ウ. フランチェスコ修道会    エ. イエズス会

問3 下線部(b)に関連して、このような農法の名称を漢字3文字で答えよ。

問4 下線部(c)に関連して、農民の自主的な耕作にまかされていた土地を何と呼ぶか、その名称を答えよ。

問5 下線部(d)に関連して、1095年にクレルモン宗教会議で聖地回復を呼びかけた教皇は誰か、答えよ。

問6 空欄（ A ）にあてはまる工業製品の名称を答えよ。

問7 下線部(e)に関連して、この都市を盟主として結成された都市同盟の名称を答えよ。

問8 下線部(f)に関連して、この都市の上層市民で銀・銅鉱山の開発や皇帝に融資するなどの銀行業で活躍した一族の名称を答えよ。

問9 空欄（ B ）にあてはまる語句をカタカナ3文字で答えよ。

問10 下線部(g)に関連して、こうした運動を何と呼ぶか、その名称を答えよ。

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

明王朝は、銀を中心とする第2次大交易時代の活力をとり入れることで、沿岸の商工業が発達したが、やがて活性化した国際交易のなかで台頭した勢力の脅威にさらされることとなった。日本を統一した豊臣秀吉は、海外への勢力拡大をねらって朝鮮に侵入し、遼河の東では女真が台頭し、明への対抗を始めた。女真は、複数の部族にわかれて明と交易していたが、やがて建州女真の一族長（ 1 ）によって統一され、1616年に後金が成立した。（ 1 ）は、支配下の女真の人々を軍事・社会組織である（ 2 ）に編成し、明に有利な交易条件や漢人社会の拡大に対する不満をかかげ、明との対抗を宣言した。その子（ 3 ）は、1636年に国号を清と定め、朝鮮を攻撃して服属させた。

明は、朝鮮への援軍派遣や、長年にわたる女真との対決により窮乏した。さらに、軍事費や朝貢貿易の費用を調達するため農民に重税を課した結果、（ 4 ）の乱などの農民反乱におそわれ、1644年の北京陥落と崇禎帝の自殺をもって滅亡した。明の将軍（ 5 ）は、崇禎帝の自殺を受けて清に降伏し、万里の長城の東端に位置する要地である（ 6 ）の門をひらくと、清の第3代順治帝は、（ 4 ）の軍をやぶって北京に遷都した。順治帝はその後、内陸アジアの騎馬民族としての満洲・モンゴル・チベットとのむすびつきを確認しつつ、漢人社会を力で支配しようとした。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 6 ）にあてはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、16世紀以降、明には海外から大量の銀が輸入された。そのうち、中南米のスペイン植民地で鑄造され、マニラを経由して東アジアにもたらされた銀は何と呼ばれたか、答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、朝鮮王朝の水軍の武将で、日本軍をやぶったことで現在も韓国で英雄視されている人物は誰か、答えよ。

問4 下線部(c)に関連して、後金が1625年に都を置いた場所は、その後（ 3 ）によって何と改称されたか。次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. 開城 イ. 臨安 ウ. 大都 エ. 盛京

問5 下線部(d)に関連して、18世紀に入ると、モンゴル・チベット・新疆・青海の地は、清の勢力下に置かれながらも、一定の自治が認められた。これらの地域は総称して何と呼ばれたか、答えよ。

3 次の文章を読み、下の設問に答えよ。

17世紀ころより北アメリカでは、オランダ、フランス、イギリスによる植民地建設が本格化していった。オランダは、1621年に（ 1 ）会社を設立し、<sup>(a)</sup>アフリカ西岸とアメリカとの通商にのりだした。北アメリカ東岸には、ニューネーデルラント植民地が建設された。しかし、1652年にはイギリスとオランダの戦争が開始され、<sup>(b)</sup>イギリス優勢のうちに終わった。

フランスは17世紀初め以来、ケベックを中心にカナダへ進出した。ルイ14世時代にはミシシッピ川流域の広大な土地に対して領有を宣言し、この地を国王の名にちなんで（ 2 ）と名付けた。

イギリスは、17世紀初頭に北アメリカ東岸に最初の植民地を設け、これはエリザベス1世にちなんで（ 3 ）と呼ばれた。その後、多くのピューリタンが本国での迫害を逃れて北アメリカに移住した。1620年には（ 4 ）<sup>(c)</sup>と呼ばれるピューリタンを中心とする人々が、メイフラワー号でアメリカにわたった。そして18世紀前半までに、北アメリカの大西洋岸には、イギリスの13の植民地が形成された。

18世紀になると、フランスとイギリスの間で戦いがくりかえされた。1701年から開始されたスペイン継承戦争の結果、イギリスはフランスから北アメリカの領土を得た。その後、1756年から七年戦争が開始され、<sup>(d)</sup>これと並行して北アメリカでイギリスとフランスの植民地戦争がたたかわれた。1763年には戦争の終結に際して、イギリス・フランス・スペイン間で（ 5 ）条約が結ばれ、イギリスはこれによりカナダとミシシッピ川以東の <sup>(e)</sup> などを獲得した。これにたいしてフランスは、ミシシッピ川以西の（ 2 ）をスペインに譲渡した。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 5 ）に当てはまる語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、『海洋自由論』（1609年）や『戦争と平和の法』（1625年）を著し、「国際法の祖」と呼ばれるオランダの法学者は誰か、答えよ。

問3 下線部(b)に関して、この戦争は、1651年にイギリスがオランダの経済活動に不利となる法を制定したことが発端となっておきた。この法の名前を答えよ。

問4 下線部(c)に関連して、イギリス本国ではピューリタンが大きな役割を果たしたイギリス革命がおき、1642年には王党派と議会派のあいだで内戦がおこった。議会派を勝利に導き、1653年に終身の護国卿となった人物の名前を答えよ。

問5 下線部(d)に関連して、同じころ、フランスとイギリスの間の戦いはインドでも繰り広げられた。1757年にイギリス東インド会社軍と、フランスおよびベンガル太守連合軍の間で起きた戦いを何というか答えよ。

問6 下線部(e)に関連して、この時、イギリスがスペインから獲得した地域を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ニューファンドランド    イ. マサチューセッツ    ウ. アカディア    エ. フロリダ

次の文章を読み、下の設問に答えよ。

オスマン帝国は、第一次世界大戦に敗れ、セーヴル条約でアラブ地域を失ったうえ、列強による国土分割の危機に直面した。このとき（ 1 ）がトルコ大国民議会を組織してたちあがり、1922年、占領された地をギリシア軍からうばい返し、（ 2 ）制を廃止して、1923年に（ 3 ）を首都とするトルコ共和国をたてた。彼は大統領となったのち、政教分離、太陽暦の採用、女性参政権の実施、ローマ字の採用など近代化を強くおしすすめた。また対外面では、1923年に連合国と（ 4 ）条約を結んで新国境を定め、治外法権の廃止、関税自主権の回復に成功した。

大戦は、トルコ以外のイスラーム諸国にも大きな転換をもたらした。1914年からイギリスの保護国となっていたエジプトでは、戦後（ 5 ）党を中心に独立運動が展開され、1922年にイギリスの保護権放棄にともないエジプト王国が成立した。しかし、イギリスは（ 6 ）運河の支配を保ち続け、さまざまな特権を留保したので、エジプト人の抗議が続いた。1936年の条約でエジプトは地位を改善したが、イギリスはなお運河地帯の兵力駐屯権を手放さなかった。

イランの（ 7 ）朝では戦後、反イギリスの民族運動が高まったが、（ 8 ）がクーデタによって実権をにぎり、1925年にパフレヴィー朝をひらいた。彼はトルコにならって近代化につとめ、1935年に国名をペルシアからイランと改めたが、石油利権はイギリスににぎられたままであった。隣接するアフガニスタンはイギリスの保護国とされていたが、1919年独立に成功した。

問1 文中の空欄（ 1 ）～（ 8 ）に当てはまる人名または語句を答えよ。

問2 下線部(a)に関連して、現在のレバノンやシリアはフランスの委任統治領となったが、第二帝政後のこの時期のフランスの政治体制を何というか、答えよ。

問3 下線部(b)に関連して、ビザンツ様式建築の代表作で、オスマン帝国時代にモスクへと転用されたものの、トルコ共和国初期に無宗教の博物館とされ、2020年からふたたびイスラームの礼拝にもちいられるようになった建築物を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

- ア. トプカプ宮殿                      イ. アルハンブラ宮殿  
ウ. サン=ピエトロ大聖堂              エ. ハギア=ソフィア聖堂

問4 下線部(c)に関連して、次のア～エのうち、国政選挙における男女の平等な参政権が全国規模でもっとも早く認められた国を1つ選び、記号で答えよ。

- ア. イギリス      イ. トルコ      ウ. アメリカ      エ. 日本

問5 下線部(d)に関連して、宗教にもとづいた、イスラーム教徒（ムスリム）の共同体を何というか、カタカナ3文字で答えよ。

問6 下線部(e)に関連して、この運河の国有化を断行したエジプトの政治家を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ナセル      イ. サダト      ウ. ムバラク      エ. アサド

問7 下線部(f)に関連して、この王朝は1979年にイラン革命によって崩壊したが、この革命の指導者でその後成立したイラン=イスラーム共和国の初代最高指導者となった人物は誰か、答えよ。

問8 下線部(g)に関連して、イランの石油産業の利益を独占していたアングロ=イラニアン石油会社に対し、そのイラン国内資産の国有化を断行した政治家を、次のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア. ジンナー      イ. モサデグ      ウ. ティトー      エ. スカルノ